

\* \* \* 編 集 後 記 \* \* \*

新生「てんとうむし」の第12号をお送り致します。多くの方々に毎回寄稿して戴き、県下の昆虫相解明が進んでおります。しかし、今一度足踏み状態というのが本当のところでしょう。例えば、神戸や淡路地区になると多くの研究者によりマクロの昆虫相は解明がかなり進んでいます。その点、我が播磨は但馬地方と共に残念ながら解明されたとは決して云えません。播磨は一つの地方としては大きすぎるのでしょうか。また、国宝であり、世界遺産にもなった姫路城が立派すぎて自然文化の不毛の地になったのでしょうか？。決して播磨は人材不足ではないはずです。旧くは大上宇市、井口宗平、近代昆虫学の祖である松村松年、森為三など錚々たる偉人を輩出した地であり、現在も在野の研究者は数多いと思えます。しかし、大きな仕事をする事など期待はできません。たとえば兵庫県産昆虫目録や播磨産昆虫目録などです。一枚岩の団結がはかれない理由があるはずです。我々播磨人は狭量か排他的で小さなグループを作ったりしているからではないでしょうか。結局は個人的活動になるため、どうしても小さな研究となってしまう惨めな結果となります。これからの同好会活動には出来るだけ参加していただき、大きな仕事に向かって行こうではありませんか。

てんとうむし 12 号

発 行／姫路昆虫同好会  
発行日／1998年4月30日  
編集者／相坂耕作・高島 昭  
事務局／〒671-1143

姫路市

相坂耕作方

TEL/FAX 0792-36-